

2026年春の読書感想文・課題作文優秀作品

【中学部・課題作文】

十日市場校 S.K.くん (十日市場中)

姫路城の入場料は市内外で価格差をつけて実行されている。資料Ⅰの海外の入場料と比べるとその考え方は珍しいものではないと感じた。ギザのピラミッドやタージマハルでは自分の国の国民と外国人とで入場料に大きな差がある。文化財の維持費を考えれば合理的だと言える。姫路城も同様に世界遺産や文化財の保存のための費用確保という視点をもっと重視すべきだと考えた。

次にオーバーツーリズム対策として最優先で取り組むべきことは観光客の分散化である。特定の場所や時間帯に人が集中することで交通渋滞やマナー問題が生まれる。マナー問題については、例えばディズニーランドでは夢を壊さないように一つのゴミ箱から30歩以内のところにもう一つのゴミ箱を作ってポイ捨てをなくしている。このような取り組みを真似て、観光客が自然とあるべき姿で観光するように誘導することができれば素晴らしいと考える。

観光地における二重価格について私は一定の理解ができると思う。観光地の維持には多くの費用がかかるからだ。例えば日産スタジアムは昨年お金がなくて悲慘な状態であったことを思い出した。その費用を誰が担うべきかを考えると利用頻度の低い外国人観光客に多く負担してもらうのはどうだろうか。「不公平だ」と感じる人もいるかもしれないが、単に価格差を設けるのではなく、その理由を明確に説明して納得を得る努力をすればいい。また、地域住民の割引とかを組み合わせるのも良いかもしれない。

持続可能な観光先進国を目指すには、観光と地域住民の生活環境の両立を意識する必要がある。そのためには観光収入を地域に還元し住民の理解と協力を得ることが重要だ。さらに、観光客にもルールやマナーを守る意識を持ちやすい仕組みが求められると考える。

十日市場校 S.R.さん (十日市場中)

私は観光における二重価格の設定について賛成だ。観光客によって地域住民の生活に迷惑になっている部分もあると思うので決して不平等な対策ではないと感じる。

資料Ⅰで国外の事例が出ているが、日本の姫路城の事例と比べると、他国は国民や地域住民向けの価格をととても低く抑えているようだ。地域外の人々から高い料金をとることで地域の人々は安く利用でき、また、地域の活性化などに役立てることができるのだらうと思った。

一方で資料Ⅱにある通り、観光地周辺の住民の方は特に交通渋滞に悩んでいることを知り、混雑緩和のための入場規制と交通整備が必要だと感じている。このような対策を実行していくためにも二重価格の導入は必要だと私は考える。

資料Ⅲに出ている声の中では、特に「日本のおもてなし精神への評価が下がりそうで嫌だ」という意見に私は違和感を覚えた。私は家族旅行で立ち寄ったカフェで1年以上経っていたにもかかわらず覚えてくれていたことをきっかけにお店の人と仲良くなり、それ以来リピーターになっている。居心地の良さや人柄の温かさを強く感じているからだ。値段が高くても満足できるものなら評価はむしろ上がると思う。

日本を持続可能な観光先進国にしていくためには、価格は上乘せしたうえで、それを観光地の景観維持と交通の整備に充てることを提案したい。世界遺産そのものと、それに合うように周囲の景観を整え、混雑することなく体験できれば、その満足感がリピーターを呼ぶことにつながると思う。また、交通規制でなかなか行けないことでも特別感が生まれると考えた。そしてそれは観光客にとっても、観光地周辺の住民の方にとっても、日本全体にとっても共存共栄が図れる対応になると確信している。

【小学部・読書感想文】※今回該当者無し